

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次



重文 「陵王」面 真清田神社蔵

## Rotary 一宮RC



### The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 ☎491-0858 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931

## UNITE FOR GOOD

URL:<http://rc138.org> E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

2026年2月26日  
第3668回例会

プログラム  
家田 崇氏  
(南山大学法学部教授)

ロータリーソング 「四つのテスト」

第3667回例会の記録  
2026年2月19日(木)

### 会長挨拶

山上哲司

ゴルフを愛好される皆さんは、伝説のアマチュアゴルファー・中部銀次郎をご存じのことと思います。彼は甲南大学在学中の1962年、日本アマで最年少優勝を果たしたのを皮切りに同大会で史上最多の6勝を挙げました。1967年には西日本オープンで優勝し「プロより強いアマ」と称される存在となりました。

私も大学在学中、アマチュアゴルファーの理想像として中部氏のゴルフ哲学と「ベタ足打法」にあこがれ、分解写真を見ながら練習に励んだことを今でも鮮明に記憶しています。

中部氏は生涯アマチュアを貫いた理由として2つの体験を挙げています。

1. 日本代表として出場した世界アマで、ジャック・ニクラスの圧倒的なプレーを目の当たりにし、「世界ではとても戦えない。井の中の蛙でもいい、その中で頂点を目指す」と悟ったこと。
2. 「関西のドン」と呼ばれた杉原輝雄プロが練習場で放つ5番ウッドの球がことごとくボール拾いをしている研修生の1～2歩以内に集まるのを見た際、高度な技術にはさほど驚くことはなかったが、これほどの技術を持つ者が研鑽を積み続ける姿勢に戦慄を覚えた。

中部氏は「すべてのストロークは等価である。大事でない1打などありえない」

次回の予定

米山奨学生送別会  
米山記念奨学生 李 昱さん

会 長	山上 哲 司	会長エレクト	桑原 英 寿
副 会 長	梯 國 彦	副 幹 事	吉山佐人規
幹 事	大 鹿 晃 裕	会報委員長	梅 谷 朋 志

「起こったことに鋭敏に反応してはいけない。やわらかくやり過ごす」

「最悪を覚悟して最善を尽くす」

といった数々の言葉を残しており、その精神は現在も多くのゴルファーに受け継がれています。

### ロータリーの友2月号

西岡信幸

今年度は読者の皆様から公募した絵画作品が表紙を飾っており、今月は神奈川県・川崎RCの村田眞一(むらた しんいち)様による「ヒマワリ」です。同名の映画『ひまわり』は、第二次世界大戦下のウクライナが撮影舞台となりました。花言葉の「あなたを見つめる」になぞらえ、ウクライナへエールを送るメッセージが込められた作品です。縦表紙は東京都・立川RCの田島瑞也(たじま みずや)様による「有終のパレスホテル立川」です。長年例会場として親しまれながらも、コロナ禍の影響で閉館となったホテルへの名残惜しさと感謝を、ペン画で描かれています。

今月は「平和構築と紛争予防月間」です。特集「平和を願う言葉の記録」では、戦争を経験された会員の皆様の言葉を綴っています。平和を希求するロータリアンとして、その想いを後世に伝えるべく、ぜひご一読いただき、現在の世界情勢と平和について考える機会としていただければ幸いです。

14ページからは、横浜で開催された「ロータリー研究会」の特集です。RI会長フランチェスコ・アレツツオさんも来日され、リーダーシップと奉仕への理解を深める貴重な機会となりました。最新の方針や意見交換の内容など、学びの多い一冊となっております。

縦組み2ページからは医学博士、精神科医、評論家の斉藤環(さいとう たまき)さんの「これからの時代に求められている不登校支援」がテーマです。かつては「怠け」と誤解されることもありましたが、現在は社会全体で取り組むべき重要な課題となっています。支援の在り方を問う、非常に示唆に富む内容です。

「この人を訪ねて」のコーナーでは、呉RCの山下美穂(くさか みほ)様を紹介しています。

### 委員会報告

#### ニコボックス

中島崇介

☆ 坂野公治君

歴史と伝統のある一宮RCにて、名鉄グループの活動について御紹介させていただく機会をいただいた喜びで。本日はよろしくお願ひいたします。

☆ 山上哲司君 大鹿晃裕君  
 本日は一宮RC会員の坂野公治さんの卓話をいただきます。名古屋鉄道さんの都市開発の経過を楽しみにしております。

**出席報告**

現在の会員数	110名
本日の出席数	64名
前々回の出席率	100%

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*  
 会員卓話  
 坂野公治君

テーマ「魅力ある地域づくり・まちづくりに  
 向けた名鉄グループの取組について」



昨年 5 月に事業化を決定・公表した名古屋駅地区再開発計画・名鉄名古屋駅再整備計画については、工事の施工予定者の選定過程において、昨年 11 月に応募参加者から、人材確保難のため計画に対応する施工体制の構築が困難であることを理由とした入札辞退届が提出されました。加えて、概算工事費及び工事期間が、当初想定を大幅に上回る見込みとなったことから、スケジュールを未定と変更するとともに、現計画の再検証及び見直しに着手することとなりました。これによりグループの既存施設については、名鉄百貨店本店は当初予定通り 2 月末で営業を終了しますが、名鉄バスセンター、名鉄グランドホテルの一部は営業を継続し、百貨店閉店後、既存建物低層部分については賑わいを失わないよう活用策を検討します。見直しの方向性などは、まとも次第公表しますが、公共交通の利便性向上と魅力ある「まちづくり」、「地域づくり」に今後も取り組んでいきます。

名鉄グループでは、沿線拠点駅での複合再開発、高架化事業を契機とした高架下等の開発、既存商業施設のリニューアル、沿線・地域への定住促進によるまちづくりを進めています。地域に根差し「人の移動」を生業とする企業グループとしては、交通サービスの提供だけではなくまちづくりにも積極的に関与し、定住・交流人口の増加による地域の活性化に貢献して地域価値を向上させることは、人口減少・少子高齢化が進展する中で持続的な成長を図るために重要な事業戦略であると位置付けています。

これまでの主要な開発事例としては、いわゆるエキナカ施設として 2014 年に開業したミュプラット金山、20 年開業の同大曾根、21 年開業の同一宮、東岡崎駅再開発の一環として 24 年に駅南口に先行開業した駅ビルの「SWING MALL」、閉館した百貨店を商業施設と事務所の複合施設

にリニューアルし 25 年に開業した「イチ＊ビル」、年間約 700 万人の熱田神宮への参拝客をターゲットとし、3 棟の長屋風の木造平屋建て店舗が特徴の「あつた nagAya」、また、駅間(清水～尼ヶ坂)を商店街で結ぶという高架下開発としては新たな試みにより鉄道との相乗効果を高めるとともに、「あたらしいまちの景色を、高架下から」をコンセプトに、約 500m にわたって飲食店やオフィス、保育施設等が並び、建物のデザイン面ではシンプルな家型でアクセントカラーとして複数色の外壁を用いて彩を加えるなどの工夫により、高架下駐車場を地域密着型の商業空間に再生した 19 年開業の「SAKUMACHI 商店街」、布袋駅の高架化事業完了後、駅周辺のまちづくりに併せ、高架下の空間に木の温かみのある木造の商業施設として 24 年に開業した「MOKUKICHI」があります。さらに、当社では初の官民連携の Park-PFI となる商業施設「岐阜城楽市」を 25 年に開業、7 棟の木造平屋建ての建物に店舗を誘致し、賑わいを創出しています。

現在、東岡崎駅北口の再開発事業を進めており、知立駅周辺や喜多山駅周辺の高架化事業の進捗に併せ高架下利用について地元関係者と協議を始めています。名鉄岐阜駅エリアの再開発も検討中でありま。

また、開発のみならず、ホテル・レジャー、飲食・物販などの「まち」を彩る事業、保育施設やシルバーフィットネス等の生活サービスなどの「社会」を支える事業も自ら展開し、地域価値の向上に努めています。

さらに、犬山キャンペーンの実施や日間賀島との連携など、観光促進による地域の活性化に寄与してきたほか、母都市名古屋を中心に個性的な魅力を持つ多数の「まち」をつなぐことで、「なごや圏」を面として新たな魅力を生み出していくため、「Co machi (こまち)観光」推進会議を立ち上げ、活動を始めています。

名鉄グループは、使命として「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」を掲げ、24 年には経営ビジョンを刷新し、「名鉄× WAO」をスローガンとして 企業活動を展開しています。これらを実現するために 2040 年のありたい姿として、定住・交流を促進し沿線・地域の更なる発展に貢献することで、「この地域に名鉄グループがあつてよかった、と思っただけの存在でありたい」との思いを込めて、『「地域」を創る、「社会」を支える、そして「まち」を彩る～リーディングカンパニー～』を目指しています。当グループに対する引き続きのご理解とご支援をお願いいたします。



2/17 修文学院高等学校IAC3年生送別会